

ジメジメ、ベタベタのうっとうしい梅雨が続いていましたが、6月末から真夏のような晴天と暑さが続き、乳児クラスの子ども達は、高熱を出してお休みをする子が多くみられました。

6月28日には、もう梅雨が明けてしまい、毎日のように高温注意報が出ていますので、熱中症にならないようこまめに水分を摂りましょう。

7月いよいよ夏本番！！はと組さんやもも組さんは、お泊り保育を控え、ドキドキ、ワクワクの毎日♪元気にその日が迎えられるよう、規則正しい生活をしましょうね☘

## 6月の感染症

ヒトメタニューモウイルス感染症：1名 伝染性紅斑（りんご病）：5名

### 伝染性紅斑（りんご病）とは・・・

皮膚の発疹を主症状として、両頬がりんごのように赤くなることから別称“りんご病”と呼ばれています。

症状：約10日の潜伏期間の後、両頬に赤い発疹が現れ、体や手・足に網目状の発疹が広がりますが、これらは、1週間程度で消失します。

※頬に発疹が出現する7～10日前に、微熱や風邪のような症状が見られ、この時期にウイルスの排出が多くなり、発疹が現れる時期にはウイルスの排出量は低くなり、感染力もほぼ消失します。

妊娠中（初期）に感染した場合、まれに胎児の異常や流産が生じることがあるので、園で流行し始めたら、マスクをしての来園が望ましいでしょう。

### 熱中症に注意しましょう・・・

熱中症とは、高温多湿の環境下で体内の水分や塩分（ナトリウム・・・）のバランスが崩れたり、体温の調節機能がうまくはたらかず、体に熱がこもり、大量の発汗から突然汗が出なくなり、吐き気、倦怠感などの症状が現れます。重症化すると、意識障害を起こし、死に至る危険性があります。また、熱中症は梅雨の合間に突然気温が上昇した日や、梅雨明けの蒸し暑い日など、からだ暑さに慣れていないときに起こりやすく、特に注意が必要です。

### 予防

○外で遊ぶ時は、なるべく日影の涼しい場所を選びましょう。

○休息と水分補給をこまめにとりましょう。

○通気性がよく、襟元にゆとりのある服を着ましょう。太陽光の下では、輻射熱を吸収して暑くなる黒色系の服は避けましょう。

○つばの広い帽子をかぶり、日影では帽子を脱いで、熱がこもらないようにしましょう。



## 熱中症が疑われたら

- 涼しい場所に移動し寝かせ、衣服を緩める
- 少量の水分（経口補水液、イオン飲料）をこまめに与える
- からだを冷たいタオルで拭き、うちわなどで扇ぐ。
- 首やわきの下、足の付け根に冷たいタオルを当てて、体を冷やす。

※呼びかけても反応がない、ぐったりしている、水が飲めない、体温が40℃を超えている、けいれんを起こす・・・急いで受診するか、救急車を呼びましょう。

### 7月8月保健行事

- 7/2（月）身体測定（2、4、5才児）
- 7/3（火）身体測定（0、1才児）
- 7/4（水）身体測定（3才児）
- 7/6（金）地域身体測定
- 7/9（月）地域。0才児健診
- 7/13（金）地域ベビーマッサージ・育児相談
- 7/20（金）地域ベビーマッサージ・育児相談
- 8/6（月）身体測定（2～5才児）
- 8/7（火）身体測定（0,1才児）
- 8/20（月）0才児健診

※8月は、地域ベビーマッサージ・身体測定・健診はお休みです。



6月に歯科健診をしました。結果については健康ノートに記載してあります。むし歯の記載がありましたら、必ず歯科受診をするようお願いします。治療をせず放置していると、悪化をしむし歯の数が増え、治療に時間を要しますので早めに受診してください。

※むし歯の予防には、フッ素入りの歯磨き粉を使用するとよい効果が出ます。ブクブクうがいができるようになったら使用してみましょう。